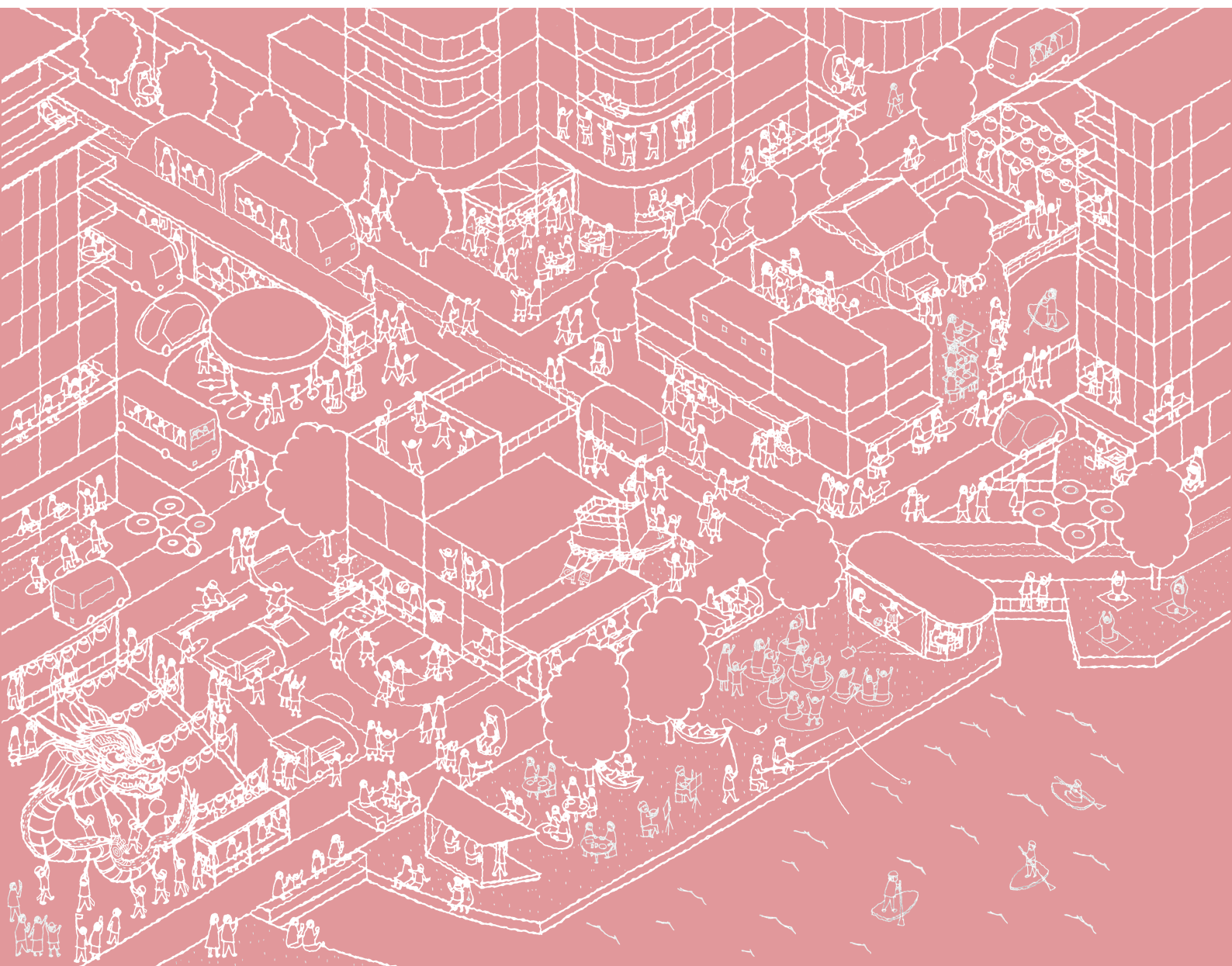


第4章

整備方針

- 1 整備方針とは ————— 38
- 2 川辺のエリアの整備方針 ————— 39
- 3 海辺のエリアの整備方針 ————— 46
- 4 岬のエリアの整備方針 ————— 52
- 5 まちなかのエリアの整備方針 ————— 65
- 6 都心部全体での取組み ————— 77
- 7 整備方針（全体） ————— 82
- 8 進行管理 ————— 86



前章で述べた各エリアの整備の方向性を踏まえ、整備方針を次のとおり定めます。

整備方針は、「都心部に生まれる賑わいや人の流れを「まちなか」を含む都心部全体に回遊させる」ために必要となる取組みを、「実施中の事業」、「すでに構想・計画がある事業」、「本構想で提案する取組み」の3つに整理しています。

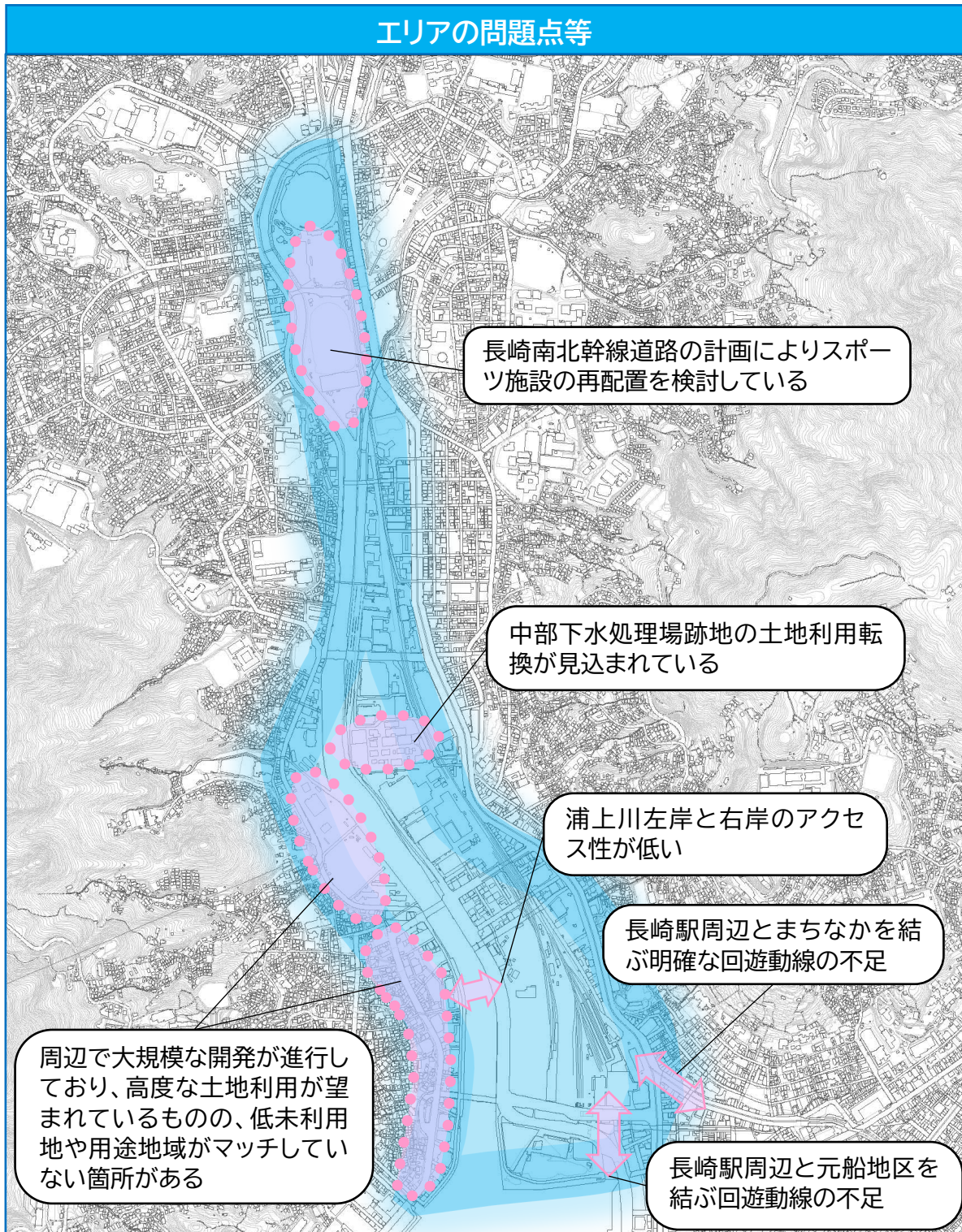
なお、「本構想で提案する取組み」については、現時点で長崎市が考える取組みの方向性を示すものであり、整備時期や事業手法、実施主体等の具体化に向けては、今後、関係者で協議しながら進めていくこととなります。

また、整備方針については、今後の社会情勢の変化等に応じて、柔軟に見直していくこととします。

次ページ以降の図面中の表記について、次のとおりとします。

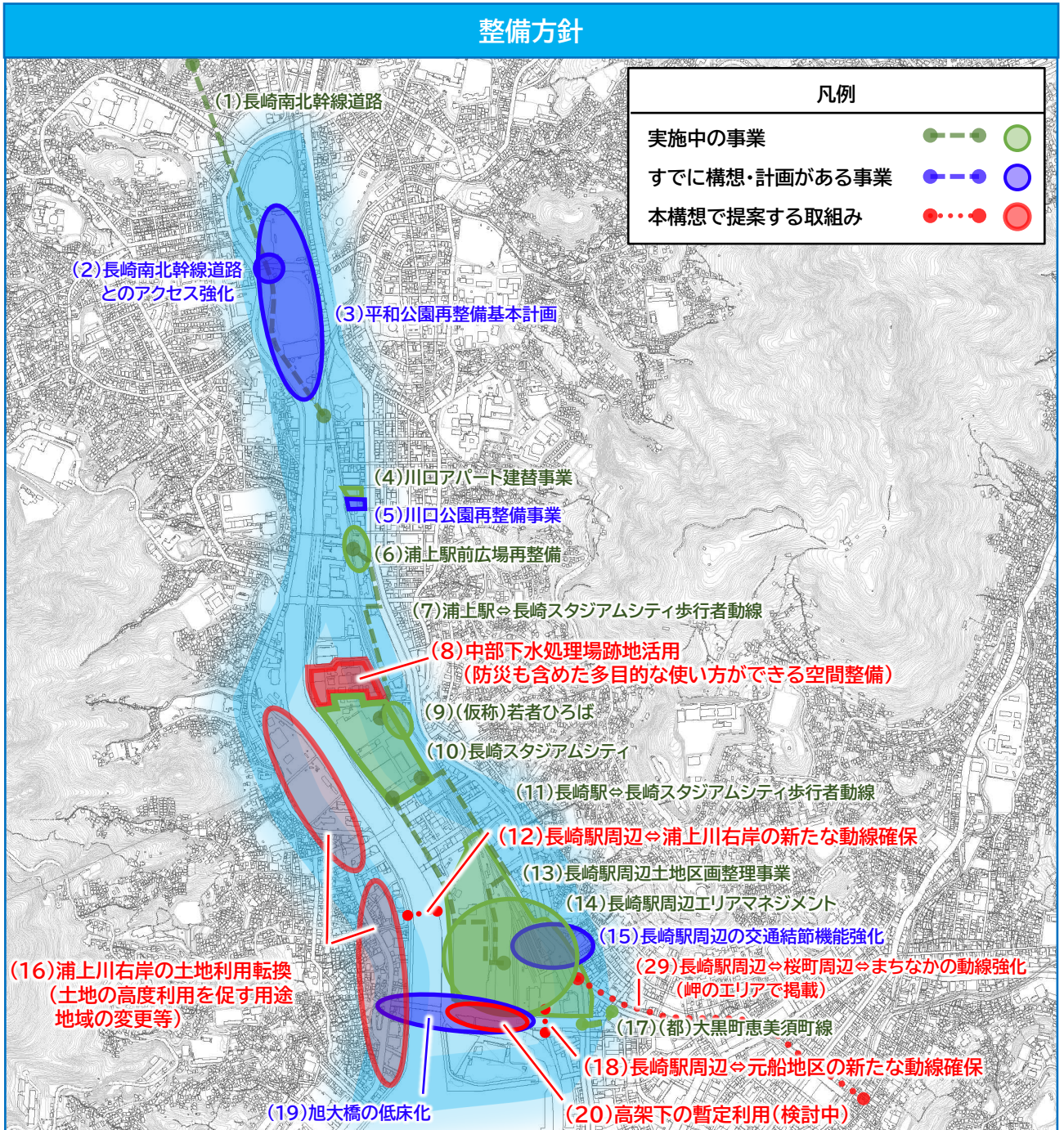
- 「実施中の事業」を緑色で、「すでに構想・計画がある事業」を青色で、「本構想で提案する取組み」を赤色で示す
- 実施時期については、短期的（10年程度）、中長期的（20、30年程度）で表現する

(1) エリアの問題点等



(2) 整備方針

エリアの位置づけ(再掲)	エリアの整備の方向性(再掲)
陸の玄関口として、長崎駅を中心とした一大集客エリア スポーツ・レクリエーションなどの娯楽や余暇の充実 土地利用転換による、多様で柔軟な機能の充実	全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及 全ての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備 浦上川右岸など、土地利用の転換や高度利用により、多様で柔軟な機能の確保



(3) 「本構想で提案する取組み」の内容

(8) 中部下水処理場跡地活用(防災も含めた多目的な使い方ができる空間整備)

- 概要

中部下水処理場跡地については、約 2.7ha というまとまった面積を有しており、平坦地が少ない長崎市にとって貴重な土地です。

そのため、その活用については、周辺の土地利用や交通アクセスの状況を踏まえながら、大規模災害時や臨時的な大型イベント時においても円滑な都市機能を維持するなど、平常時と非常時の利活用需要に応じた多目的な使い方ができる空間整備が必要と考えます。

- 実施時期：短期的

- 関連性：問題解決へ向けての方策とエリアの整備の方向性との関連（着色部）

問題解決へ向けての方策（再掲）
回遊性の向上
回遊目的の創造
多様で柔軟な活用ができる土地利用への転換
都市基盤を活用する体制づくり
先進的なまちづくり施策の意欲的な展開

エリアの整備の方向性（再掲）
全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及
全ての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備
浦上川右岸など、土地利用の転換や高度利用により、多様で柔軟な機能の確保

- イメージ（他都市の事例）再掲

IKE・SUNPARK としまみどりの防災公園(イケ・サンパーク) ～官民連携によるフェーズフリーな公園整備と人、モノ、公園、まちを育てる仕組みづくり～



【フレキシブルな空間（出典：国土交通省 HP）】

平時は公園機能、災害時は防災広場等、多様な使い方を可能とする空間で、チャレンジショップ等、産業を作り出す機能も有している。

(12) 長崎駅周辺⇔浦上川右岸の新たな動線確保

● 概要

長崎駅周辺地区と浦上川右岸地区を繋ぐ動線としては、旭大橋や稲佐橋がその機能を果たしています。

こうした中、長崎市としては、長崎駅周辺地区における大規模開発の効果を周辺部まで波及させ、浦上川右岸地区の活性化と、長崎駅周辺地区の更なる賑わい創出に向けて、両地区の回遊性の向上に寄与するような新たな歩行者動線について検討が必要と考えます。

● 実施時期：中長期的

● 関連性：問題解決へ向けての方策とエリアの整備の方向性との関連（着色部）

問題解決へ向けての方策（再掲）
回遊性の向上
回遊目的の創造
多様で柔軟な活用ができる土地利用への転換
都市基盤を活用する体制づくり
先進的なまちづくり施策の意欲的な展開

エリアの整備の方向性（再掲）
全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及
全ての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備
浦上川右岸など、土地利用の転換や高度利用により、多様で柔軟な機能の確保

● 他都市の事例



【回遊目的となる橋（出典：岡崎市HP）】

岡崎市にある桜城橋。「イベントでも使える橋」としてカフェなどを橋の上や、橋のたもとの橋詰広場に作り、通行するだけでなく楽しく過ごせることを目指している。

(16) 浦上川右岸の土地利用転換(土地の高度利用を促す用途地域の変更等)

● 概要

当該地区については、長崎駅の開発や長崎スタジアムシティなど集客拠点とも近く、さらなる土地の高度利用が見込まれる地域であるものの、現状では、低未利用地が点在しており、そのポテンシャルを生かせていないと考えています。

そのため、長崎駅周辺や長崎スタジアムシティとの近接性を生かし、浦上川右岸地区の活性化に向けた土地利用転換を促す用途地域の変更のほか、地域の魅力を向上する環境整備や安全安心なインフラ整備が必要と考えます。

● 実施時期：中長期的

● 関連性：問題解決へ向けての方策とエリアの整備の方向性との関連（着色部）

問題解決へ向けての方策（再掲）
回遊性の向上
回遊目的の創造
多様で柔軟な活用ができる土地利用への転換
都市基盤を活用する体制づくり
先進的なまちづくり施策の意欲的な展開

エリアの整備の方向性（再掲）
全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及
全ての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備
浦上川右岸など、土地利用の転換や高度利用により、多様で柔軟な機能の確保

● 現況写真



【航空写真（出典：Google Earth）】

(18) 長崎駅周辺⇔元船地区の新たな動線確保

● 概要

長崎駅周辺地区と元船地区では、それぞれ再整備事業が実施又は計画されており、今後さらに人の往来が増えることが見込まれていますが、現在、両地区をつなぐ歩行者動線は、決して十分とは言えない状況です。

そこで、両地区の回遊性を向上させる新たな歩行者動線が必要と考えます。

● 実施時期：短期的

● 関連性：問題解決へ向けての方策とエリアの整備の方向性との関連（着色部）

問題解決へ向けての方策（再掲）
回遊性の向上
回遊目的の創造
多様で柔軟な活用ができる土地利用への転換
都市基盤を活用する体制づくり
先進的なまちづくり施策の意欲的な展開

エリアの整備の方向性（再掲）
全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及
全ての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備
浦上川右岸など、土地利用の転換や高度利用により、多様で柔軟な機能の確保

● 現況写真



【長崎駅周辺から元船町方面を望む】

(20) 高架下の暫定利用(検討中)

- 概要

旭大橋は、適切な維持管理を行っており、現在も健全な状態であることから、低床化は長期的な取組になります。

そこで、旭大橋の低床化を行うまでの間、高架下の空間を有効に利活用することを検討する必要があります。

- 実施時期：短期的

- 関連性：問題解決へ向けての方策とエリアの整備の方向性との関連（着色部）

問題解決へ向けての方策（再掲）
回遊性の向上
回遊目的の創造
多様で柔軟な活用ができる土地利用への転換
都市基盤を活用する体制づくり
先進的なまちづくり施策の意欲的な展開

エリアの整備の方向性（再掲）
全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及
全ての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備
浦上川右岸など、土地利用の転換や高度利用により、多様で柔軟な機能の確保

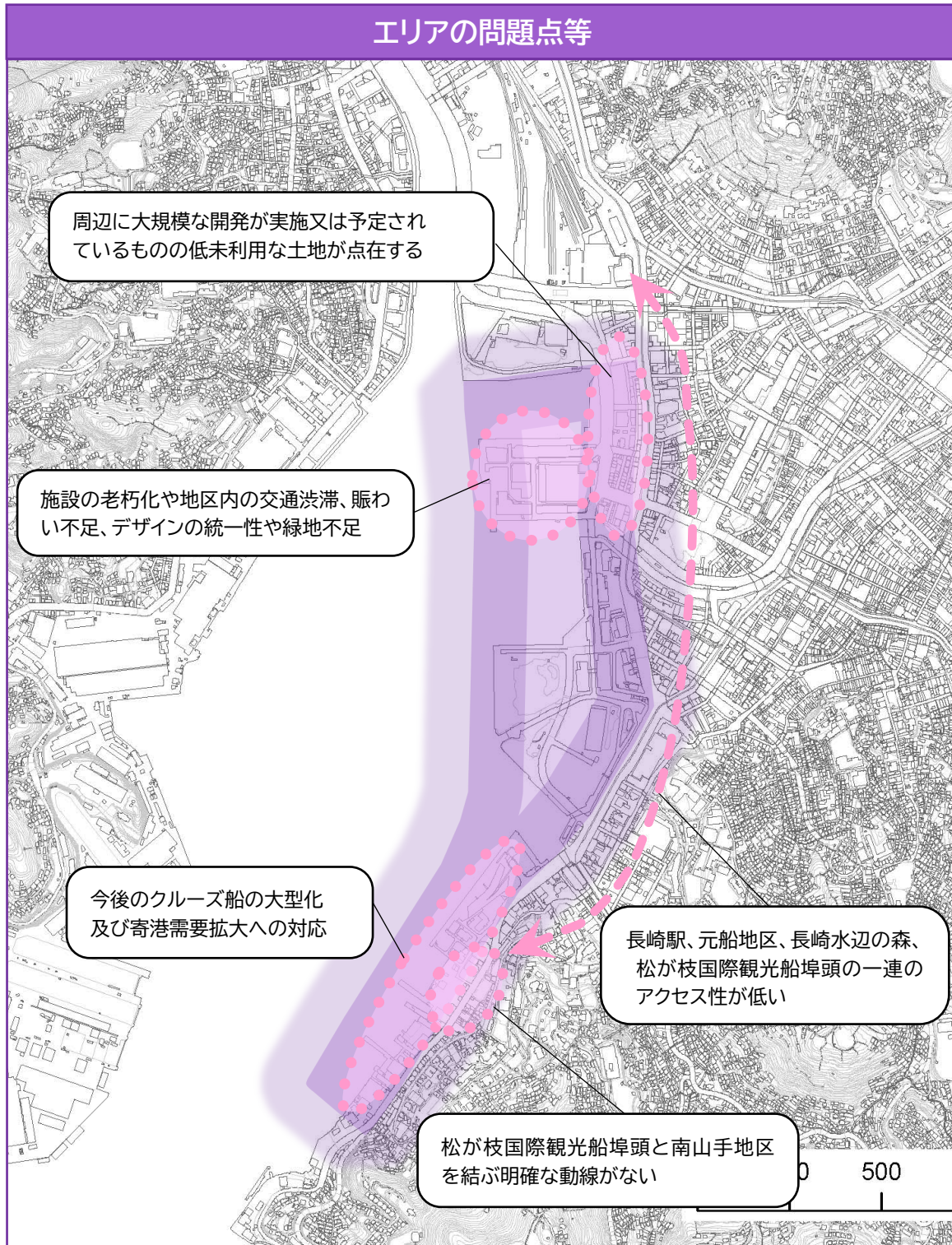
- 他都市の事例



【高架下の活用（出典：PARKFUL）】

高架下を活用した事例として、バスケットボール、スケートボードパーク、公園や、事務所、店舗、ショールームを併設できるシェアオフィスなどがある。

(1) エリアの問題点等



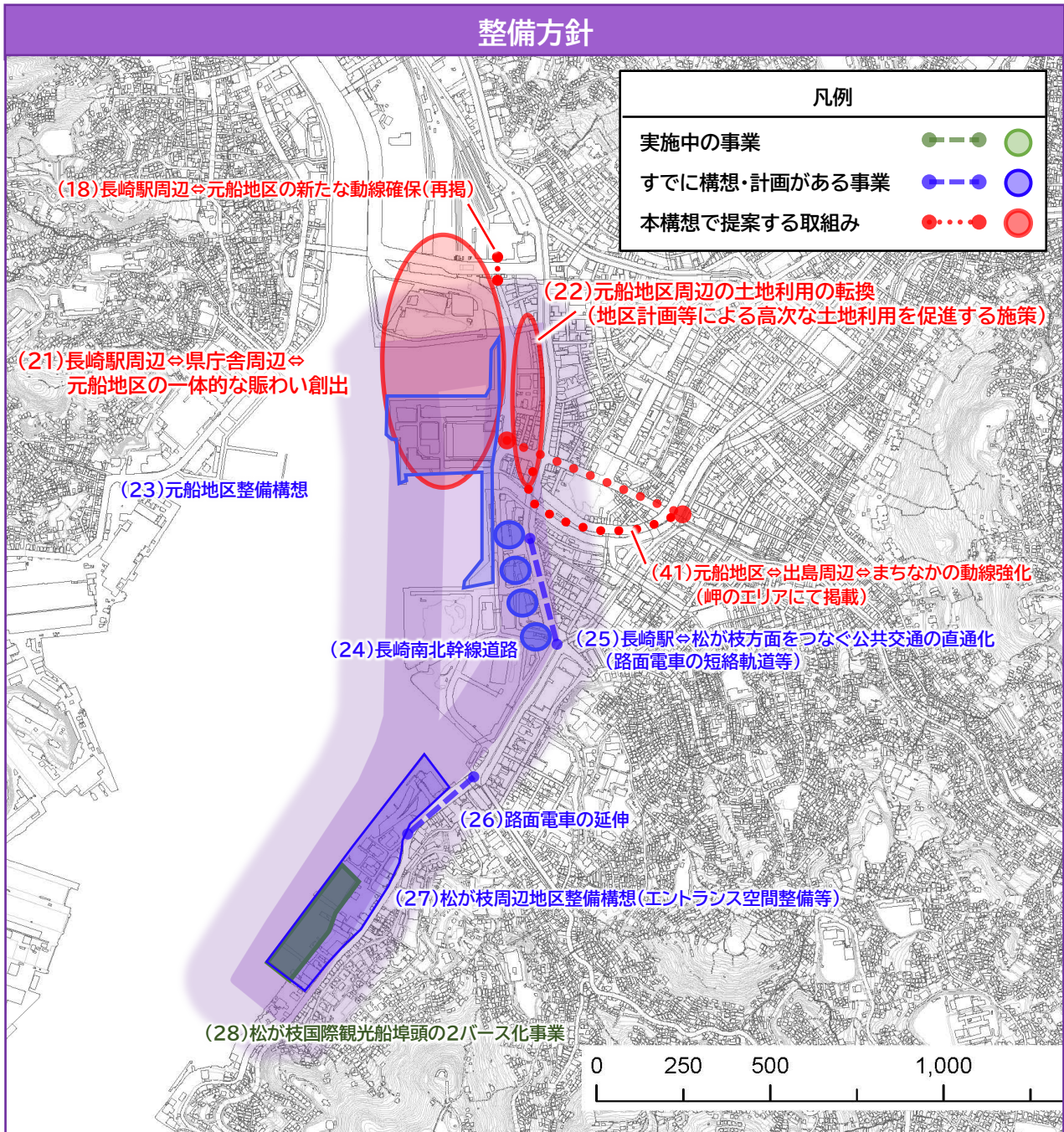
(2) 整備方針

エリアの位置づけ(再掲)

海の玄関口として、国内外との交流を進めていくエリア
 親水性を生かした憩い・潤いの空間
 港とまちの近接性を生かした、魅力ある都市環境

エリアの整備の方向性(再掲)

川辺のエリアとの連携強化による土地利用の転換と高度化
 海上交通の要所となる施設整備と臨海部の新たな賑わい・憩いの拠点創出
 まちなかのエリアとの連携強化による山手地区への回遊性向上



(3) 「本構想で提案する取組み」の内容

(21) 長崎駅周辺⇄県庁舎周辺⇄元船地区の一体的な賑わい創出

● 概要

県庁舎周辺や元船地区には、おのうえの丘（長崎漁港尾上地区防災緑地）やプラタナス広場、広幅員の歩道が整備されているため、これらを一体的に活用した新たな賑わいの創出を検討する必要があります。

● 実施時期：短期的

● 関連性：問題解決へ向けての方策とエリアの整備の方向性との関連（着色部）

問題解決へ向けての方策（再掲）
回遊性の向上
回遊目的の創造
多様で柔軟な活用ができる土地利用への転換
都市基盤を活用する体制づくり
先進的なまちづくり施策の意欲的な展開

エリアの整備の方向性（再掲）
川辺のエリアとの連携強化による土地利用の転換と高度化
海上交通の要所となる施設整備と臨海部の新たな賑わい・憩いの拠点創出
まちなかのエリアとの連携強化による山手地区への回遊性向上

● 現況写真



【航空写真（出典：Google Earth）】

(22) 元船地区周辺の土地利用の転換 (地区計画等による高次な土地利用を促進する施策)

● 概要

元船地区周辺は、長崎港元船地区整備構想が策定されており、当該エリア一体において、港との近接性を活かした土地利用が促進されることで、当該エリアの魅力向上と、長崎駅周辺と元船地区間の回遊性の向上につながります。

そこで、地区計画などを活用しながら、例えば、グランドレベルは物販・飲食、中層は業務系施設、高層階は住宅といった、多様な暮らし方、過ごし方が可能となる複合的で高次な土地利用を促進する土地利用施策が必要と考えます。

● 実施時期：中長期的

● 関連性：問題解決へ向けての方策とエリアの整備の方向性との関連（着色部）

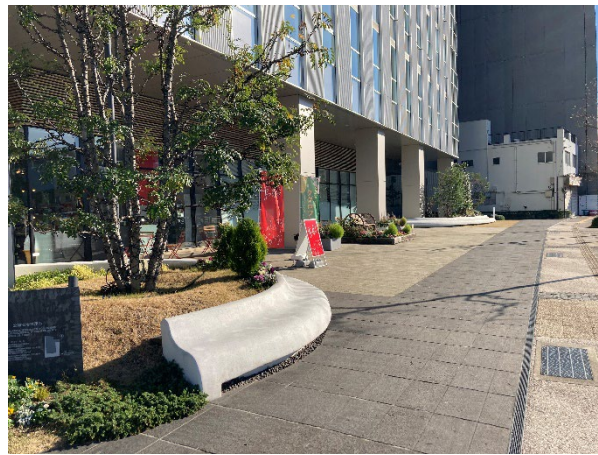
問題解決へ向けての方策（再掲）
回遊性の向上
回遊目的の創造
多様で柔軟な活用ができる土地利用への転換
都市基盤を活用する体制づくり
先進的なまちづくり施策の意欲的な展開

エリアの整備の方向性（再掲）
川辺のエリアとの連携強化による土地利用の転換と高度化
海上交通の要所となる施設整備と臨海部の新たな賑わい・憩いの拠点創出
まちなかのエリアとの連携強化による山手地区への回遊性向上

● 現況写真



【プラタナス広場からビズポート方面を望む】



【ビズポートのグランドレベル】

